第２回原村高齢者福祉計画策定委員会

議事録

日時：令和6年1月26日（金）

午後　6時半から

場所：原村地域福祉センター　多目的ホール

**１　開会**

・伊藤課長より開会あいさつ

**２　会長あいさつ（小島会長）**

・寒い中お集まりいただき、ありがとうございます。

・前回の会議を踏まえ、ご協議をお願いいたします。

**３　議事**

**○森副委員長**

・第1回目の委員会で、沢山意見を言わせていただいた。

・第８期の計画策定時には、コロナ禍ということもあり、対面での議論ができなかった。一方、第9期では、経験豊かな会社に受託いただいたこと、社長自ら委員会に出席いただいたこと、手厚く対応いただいたこと、感謝申し上げる。

**（1）ご意見と計画の反映について　（資料1）**

（原村より資料説明）

・意見なし

**（2）諏訪広域連合 高齢者実態調査について　（資料2）**

（地域総合計画より資料説明）

・意見なし

**（3）第8期計画の事業進捗状況と今後の方向　（資料3-1、資料3-2）**

（原村より資料説明）

**○森副委員長**

・2-1③ボランティア制度の検討について、いつ委託したのか。また、ポイント制度につながっていないところを追加で説明をお願いしたい。

**○事務局**

・社会福祉協議会へ令和4年度に委託させていただき、ボランティアのポイント制度について検討している。具体的には、村内の様々なボランティア団体へお声がけし、多様な活動やご意向について調査を行い、取りまとめた。

・ボランティアのポイント制度については、村としては検討を進めて、制度が高齢者の社会参加への支援として有効になるのであれば、導入することとなる。ただし、現状において、高齢者福祉につながるボランティア団体もある一方、移住などに取り組んでいる団体など分野は多様であり、福祉部門で連携し、高齢者福祉施策につなげることが難しいと考えている。

・この検討結果を参考にしながら、社会参加、就業機会につながるよう、多様な活動を通じたことが重要であると認識している。まだ制度化はできていないが、検討は継続する。

**○森福委員長**

・令和元年12月に議会で村長が検討を始めると答弁している。役場で検討会が行われ、３年後に社会福祉協議会へ委託したと理解してよいか。

**○事務局**

・ご指摘いただいた時系列であっている。

・議会で当時の村長が答弁したことは記憶しているが、その後、全庁的な議論には至っていない。ただし、福祉課の中で、議論を進めていたと理解している。４年間の時間が経過していることは事実である。

**○森副委員長**

・社会福祉協議会において、受託窓口の担当はどこか。

**○牛山委員**

・ボランティア担当が窓口ではあったが、社会福祉協議会の中でディスカッションして議論した。

・ボランティアにも、人のために取り組むボランティア活動や自己研鑽のためのボランティアなど多様な種類があり、また、高齢者だけではなく、学生や若い方が参加するボランティアもあり、ボランティアポイントを高齢者福祉に特化した制度とするのは、少し異なるのではないかとの意見も出て、賛否の意見が割れた。議論・検討を行ったが、一つの方向に向いていない状況にある。

**○森副委員長**

・検討内容については、理解した。

・運転免許証返納支援事業について、いつも議論に出ているが、貧弱であり、もう少し支援が必要ではないかと言い続けている。3,000円の支給では実質減額である。本当に検討しているのか。

**○事務局**

・ご指摘の内容は御尤もであり、重く受け止めている。

・制度改変があり、チケット配布から現金3,000円支給という形に変えた。必要な事業として担当課では理解しているが、村の財政も考慮すると予算増額は難しい状況である。なお、AI乗合オンデマンド交通「のらざあ」を一緒に運行している茅野市でも、3,000円支給となっている。村としても妥当な金額かどうか検討し、担当課として予算取りなども訴えていきたい。

**○森副委員長**

・セロリン号について、通学便は残るとの認識で良いか。

**○事務局**

・ご認識の通りで良い。

**○森副委員長**

・資料3-1「ハイリスク者の拾い上げ」について、追加で説明をお願いしたい。

**○事務局**

・ハイリスク者とは、外出するのに支援が必要な方と考えていただきたい。具体的には、車を持っていない方、近所に送迎してもらえる方がいないなどを想定している。

**○森副委員長**

・分かりにくいため、表現を変えてはどうか。

**○事務局**

・ご指摘通り、分かりやすいように、表現を変える。

**○森副委員長**

・出前講座の開催は、大変良いことである。どの程度の出前講座を持っているのか、リストアップして、もっとPRしてはどうか。

・例えば、シニア大学では出前講座がいくつもあり、延命治療、病院の選び方、誤嚥防止など多様なテーマを設定して、講師に来てもらっている。

・原村にも、このような制度があるのであれば、活用して知識を深めていただけると良い。

**○事務局**

・令和４年までは、コロナのため開催していない。コロナが５類となってから開催しており、少しずつお声がけいただいている。

・認知症だけではなく、希望があれば対応していきたい。ただし、リスト化はできていないため、今後は出前講座のメニューなどを作成し、各地区へPRしていきたい。

**○森副委員長**

・広報でも周知していただければよい。

**○事務局**

・周知の部分ができていないため、今後は周知を強化していきたい。

**○森副委員長**

・メニューがあれば、関心が高まるので、対応をお願いしたい。

**○福原委員**

・1-2⑤高齢者向け栄養弁当の宅配について、栄養指導等は実施していないのか。茅野市では、個別にアンケート調査を実施し、塩分取りすぎなどの助言などを実施していた。

**○牛山委員**

・タンパク質が高齢者は取りにくく摂取しにくいため、メニューと一緒に、このようなものを摂取した方が良い、何グラム入っているなど、両面カラー刷りにして弁当と一緒に配布している。民生委員等から高齢者へ声がけいただき、顔の見える関係で対応している。

・以前は、一人暮らしの方を対象に、北部、中部、南部地区で集まって会食していたが、コロナの影響で実施できなかったため、弁当の形をとった。他の市町村でも、会食ではなく弁当を配布しており、その時に気になる高齢者がいるなどの情報を共有している。

**○清水委員**

・4-2①包括支援センターの職員3.5人とは、どのような意味か。他の業務と掛け持ちという意味か。

**○事務局**

・包括支援センターには常時３人の職員がいるが、予防事業の教室を開催する時のみ、追加で１人来ているため、0.5人と表現している。

**○清水委員**

・３人常駐と認識しているが、何かあった場合は少ないのではないか。村長にも伝えたことがあるが、人数を増やしてはどうか。５人程度いないと動きが取れないだけではなく、日常的にも一人分の仕事量が多い。本委員会で結論は出ないが、要望事項として出したい。

**○事務局**

・課題として認識しており、包括支援センターの検討会でも、同様の議論はある。

**○福原委員**

・5-1⑦⑧「計画から削除するが、村の施策として残す」とは、どういうことか。追加で説明をお願いしたい。

**○事務局**

・毎年、進捗状況を報告するが０人の報告が続いていたため、実績0人の場合は、計画から削除してはどうかという意見をいただいたことがある。そのため、村として事業は残すが、計画には記載しなくて良いのではないかという意味である。

**○福原委員**

・現場では、緊急時に何とかならないかとの相談もあるが、村までは伝わっていないのではないか。実績０人の事業について、村で広報は実施しているか。

**○事務局**

・これまで広報は実施していない。

**○牛山委員**

・夜間一時預かりについて、村内に事業所がほぼ無かった時にできたサービスであると認識している。当時は、現在のようにショートステイサービスが無かった。

・現在は、複数の事業所において、緊急時に空いていれば受けていただけており、対応ができている。

**○福原委員**

・理由が分かったので、了解した。

**○森副委員長**

・5-1⑨緊急宿泊支援事業について、宿泊機能があるだけで安心感があり、十分であると考えるが、なぜ助成しているのか。4,000円の金額が提示されたのは初めてである。

**○事務局**

・村の事業として成立しており、要項という基準があり、制度として設定している。それに対応している事業となる。

**○牛山委員**

・緊急的に「とみさと」に１泊して、実費が2,500円必要となる。その後、他の施設に移ることが出来ればよいが、空きがない場合もあり、例えば１か月宿泊することも想定できる。その場合は結構な金額になるため、補助制度を設けている。

・宿泊部分は10割負担であり、介護認定を受けた方を対象としており、自費の部分だけ助成している。

**○事務局**

・当時、各市町村で足並みをある程度揃えた金額であり、制度上は4,000円となっている。これまで、金額の提示などできておらず、説明不足であった。

**○森副委員長**

・現在でも多くの方が宿泊しているが、緊急の場合とどう振り分けるのか。

**○牛山委員**

・現在宿泊している方は、緊急ではなく、計画的に宿泊している方である。

**○事務局**

・原村と契約している「とみさと」での宿泊が対象である。

**○小島委員長**

・計画の中には、金額を入れると変わる可能性があるため、「一部」の表現で良いと考える。

**○事務局**

・計画も数年の計画であるため、制度改正で金額が変更となる場合もあるため、金額はこれまで通り掲載しない方向で行きたいと考えている。

**○小島委員長**

・実績０人の事業について、計画から削除ということがひっかかっている。実績がないから削除するのではなく、村として予算計上しているのであれば、掲載したほうが良いのではないか。

**○田中委員**

・計画から削除されると、利用できないのではないかと勘違いするため、掲載したほうが良いのではないか。

**○事務局**

・制度としては残すものであり、計画を見た住民の方に誤解を生じさせないため、引き続き制度として存在するため、ご意見の通り、計画に謡いたいと思う。

**○田中委員**

・原村において、コロナ禍でも非常に多くのサービスに対応されていることが分かった。

・先日、おたすけマップをいただいたが、サービス内容や事業所がここに網羅されている。原村独自の地域性もあり、原村でも新しい交通手段があると暮らせるなど、素敵なパンブレットである。

・原村では、相談者がいない方が多いというデータもあったが、住民への周知が必要である。全面的に周知して、原村はこれだけ実践していると分かってもらうことも重要ではないか。

・このようなパンフレットを活用して、みんなに伝わると良い。

**○事務局**

・前回は全戸配布したが、今回は改定版として2000部策定した。あえて、全戸配布していない。訪問して相談した方や病院、事業所などで配布しており、具体的に説明できる状況で活用いただいている。

・必要であれば、在庫があるため、渡すことも可能である。

**○田中委員**

・とっかかりになる、良い資料である。

**○事務局**

・高齢者のお宅へこの冊子持って行き、話のとっかかりにしている。

**（4）第9期計画（素案）について　（資料4）　（地域総合計画）**

（地域総合計画、原村より資料説明）

**○事務局**

・国の重層的支援体制整備事業という事業があり、全国で取り組んでいる。原村でも次年度から取り組んでいく予定である。これまで行政が中心となって取り組んできた内容を、地域全員で一緒に取り組んでいく、住民が積極的に社会活動に取り組んでいただくという事業である。

・新しい事業ができるものではなく、縦割りではなく、行政、地域、住民、区長、民生委員、事業者など地域の方全員が一緒になって困っている方を支援していく、推進していくという趣旨である。

・相談できる方がいないというアンケート結果もあったため、行政として手を差し伸べたいと考える。

**○小島委員長**

・圏域の介護保険事業計画については、第９期計画においても掲載する予定か。

**○事務局**

・第8期計画と同様、掲載する予定である。

**○清水委員**

・Ｐ23 「相談ができる体制が構築されているが、認知度が低い、活用されていない」とある。活用されるためには、相談窓口の周知が重要である。

・例えば、月に１回、だれでも相談できる窓口を設けて住民へ周知するなど実践してはどうか。

**○事務局**

・相談を求める方が誰でも相談できる環境づくりが重要であり、ご提案いただいたような方向で取り組みたい。

**○清水委員**

・Ｐ９アンケート調査概要において配布数が少ないが、原村だけ全戸配布してはどうか。町会長へ配布・回収し、取りまとめてはどうか。高齢者の全体を把握することができる。2,800人の高齢者がいる中で、100票はやはり少ない。

**○事務局**

・ご指摘通り、村独自の工夫が必要であり、課題であると認識している。高齢者の声が反映できるよう、検討してまいりたい。

**○松澤委員**

・原村独自の町会長や組織を使って回収率をあげることは重要である。有線放送を利用して皆さんへの協力の呼びかけができるのではないか。

・施策の体系について提案いただいた。厚生労働省からも目標が提示されていると思うが、基本目標４地域包括ケアシステムについて、第８期計画は構築であったが、第９期計画は充実となっている。一方、施策を見ると、認知症への支援に重点があるように見えてしまう。

・国や広域でも示されているが、「深化と推進」としてはどうか。基本目標ではなく、更に上の概念で示す方が良いのではないか。

**○事務局**

・ご意見を受けて、検討させていただきたい。

**○森副委員長**

・Ｐ2　地域包括ケアシステムは国策として取り上げられており、「システムを構築、深化、推進します」と記載がある。第６期計画の策定から関わっているが、今回はじめて「団塊ジュニア」が出てきている。この言葉は本当に必要か検討いただきたい。

・第６期計画の段階で、「推進することが求められる」、第７期計画は「深化推進」、第８期計画は「一層の推進をします」という表現である。後退しているように見えるため、「更なる深化・推進」など表現を検討していただきたい。

**○田中委員**

・最近、ヤングケアラーという言葉を良く聞くが、介護者支援にもつながるため、盛り込んではどうか。

**（5）今後のスケジュールについて**

（原村より説明）

・意見なし

**4　閉会　（森副会長）**

・大変ご苦労さまでした。

・今回の資料について、ゆっくり拝見したが、良い資料を作成していただいた。原村の重点課題を取り上げていただいたことに感激した。地域総合計画に対し、お礼を申し上げたい。

・Ｐ21ボランティアに対する意欲について、24％が関心あるということで、大変驚いた。約240人もおり、潜在的な大きな数値である。介護に関するニーズは増えるが、生産人口は減少するなど、介護人材については懸念される。今回のテーマには関係ないかもしれないが、今後、本当に考えていく必要がある。

・我々の現状を考えると、元気な高齢者をどう活用していくかが重要である。ポイントなどなくても、関心がある方がこんなに多くいる。今後、一生懸命に考えていきたい。社会福祉協議会にも原村にも頑張ってほしい。

・充実した有意義な議論がされた。ありがとうございました。

以上